

新型コロナウイルス感染症 Q&A ③

(浜松医科大学 堀井俊伸教授に聞きました。)

2020年7月21日現在

政府は、5月25日に緊急事態宣言を全面的に解除し、6月19日には継続していた移動の自粛も解除としました。ところが、この頃より懸念されていたことが早くも現実のものとなってしまいました。第二波の到来なのでしょう。都市部を中心に全国的に感染者が急増しています。欧州由来のウイルスから東京・埼玉由来のウイルスに変わったとの報告もあります。医療崩壊の恐れが再び浮上しているなか、政府は、感染拡大を助長しうる政策「Go To トラベルキャンペーン」を明日（7月22日）から敢行し、ウイルス拡散の方向に舵を切りました。これを境に、一人ひとりの感染予防の力がクラスターの発生リスクに直に反映されるフェーズに入ったといえるでしょう。（堀井教授 談）

<Q1 宿泊行事について>

東京や京都方面への修学旅行や野外活動などの宿泊行事における事前の予防策や実施中の配慮事項などを教えてください。

A : まず、主催および引率にあたる教員は、現在が感染拡大の新たなフェーズにあることを十分に認識し、現フェーズ前に計画された行事についても、行き先や活動内容を感染拡大の状況とリスクを踏まえて今一度点検し、感染リスクを可能な限り排除しておかなければならないと考えます。たとえば、感染者が多発している街での自由行動は、現フェーズでは高リスクの活動だといえます。少なくとも引率者の随行が必要です。参加者の健康を守ることに加え、万一濃厚接触者に該当したときにタイムリーかつ適切な対応が必要となるからです。

行事前の準備では、参加者および同居者の出発前2週間の日々の健康状態を書面で確認することが大切です。行事を安全に催行するためには、参加者のなかに感染者がいないことを担保することが不可欠です。そのうえで、参加者に対して、十分な時間をかけ、SARS-コロナウイルス-2に曝露する可能性がある状況および行動と、曝露を回避するために遵守すべきこと（適切なタイミングでの手指衛生、マスクの活用、密な空間の見極めなど）を指導します。

実施中は、これらの基本的な感染予防を確実に実践することが大切です。とくに、各地でのクラスター発生状況（東京都区内、神奈川県内、京都市内で会食中に感染したと考えられた事例は静岡県内でも多く報告されています）からも明らかであるように、会食のあり方には細心の注意を払うべきです。食べ歩きなどは感染リスクの極めて高い行動です。宿泊施設で朝食や夕食を集団でとることにより（他の宿泊客と同時でなければ）感染リスクが生じることはないと考えますが、参加者だけの判断でお店に入って食事することはお勧めできません。大きな声でおしゃべりをしながら食事をとっている大人があちらこちらの店にいるのが現実です。昼食は、引率者の目が届く場所でお弁当やテイクアウトで対応することをお勧めします。

<Q2 インフルエンザ>

インフルエンザ流行時、コロナウイルス感染症 2019 との判別や仕方をどのようにしたらよいですか？

A：感染源となったと推測される者に診断がついていれば判別も可能になりますが、症状だけから判別することは難しいだろうと思います。

秋ごろになれば、もう少し回答できる可能性がありますので少しお待ちください。